

SAS、17年ぶりに制服デザインを刷新！ コーポレートアイデンティティを演出する 「ブルー・オン・ブルー」を採用

■ 2016年10月18日より制服デザインを変更

SAS（スカンジナビア航空）（本社：スウェーデン、日本支社：東京都港区）は、2016年10月18日（火）より同社キャビンクルー、パイロット、グランドスタッフ8,000人の制服デザインを刷新いたします。

スウェーデンのデザインファームであるTed BernhardtとSASのブランディングチームによりデザインされた新しい制服はスタイリッシュでモダンなスカンジナビアンデザインに生まれ変わり、SASのコーポレートアイデンティティである「ブルー・オン・ブルー」を採用。近年SASはロゴ、テキスト、色などのビジュアルブランディングに改めて注力しており、今回の制服のアップデートもその重要な取り組みの1つです。



今回SASは、他のブランドから際立って見え、お客様が一目でSASの制服だとわかるようなデザインを作るための試みとして、個性的なデザインで知られるアパレルブランドAMA AWEのスウェーデン人デザイナーであるAmandah Anderssonを起用いたしました。彼女がSASのためにデザインしたスカーフは空から見たSASの機体から着想を得ており、ブルー・オン・ブルーをベースに「SAS」のグラフィックが浮かび上がるデザインになっています。

Amandah Anderssonは、「当初はSASのブランドと自己の表現方法を調和させるのに少し苦労しましたが、結果素晴らしいものを作ることができ、SASとの出会いに感謝しています。」と述べています。

また今回はデザインだけではなく着心地にもこだわり、SASのクルーが制服のテスト着用をするなど1年半の歳月をかけて改良を重ねました。ポロシャツやポンチョなど形状のバラエティも多く、クルーは個人の好みや天候によって様々なコンビネーションを選べます。

キャビンクルーのマネージャーであるMargareta Vangは、新しい制服に関して以下のように述べています。

「今回は17年ぶりにデザイン、クオリティ共にアップグレードいたしました。新しい制服は印象的なデザインで、コーポレートカラーの青を強く打ち出すことで、お客様が一目で見てSASとわかるものになりました。クオリティも素晴らしく、耐久性がありしわになりにくい素材です。10月18日に新しい制服をお客様にお披露目できることを楽しみにしております。」



<SAS（スカンジナビア航空）とは>

SASは、1946年に創立。スウェーデン、デンマーク、ノルウェーの3国の出資によって生まれたヨーロッパで最も歴史の深い航空会社のひとつで、常に高い定時運航率を誇っています。

現在192カ国1,175*都市へ就航しており、ヨーロッパ、アジア、アメリカ大陸間のシームレスな乗継を実現しています。長い歴史を有しながらも最新のテクノロジーを導入し、洗練されたスカンジナビアンデザインの機内や定評のある機内食など最高のホスピタリティを提供しています。また、グリーンフライトの導入を行うなど、世界で最も環境に配慮した航空会社を目指しています。尚、SASは、世界最大で最も歴史のあるスターアライアンスのメンバーです。

*コードシェア、インターラインを含みます。その他、SASに関する詳細は、www.flysas.co.jpをご覧ください。